

市長 本町  
 三日 著任す  
 新開 縣歌  
 視察の爲め  
 十五日 頃迄  
 ひ各 學校を  
 同縣 人會の

夫人同伴日光行

九月下旬開

へす今後は警察官憲と共に極力  
の取締を嚴重にする考へにて本件  
被告と對しても充分の制裁を希望

[illegible]

り四五名を選出し遅くも来る二十  
六日頃に出發することゝ決定し午  
七時頃散會したり(釜山)

て鎮西浦に向へり▲工科學生見  
旅順工科學堂探礦科第三學年  
十五名は助教授登坂新三郎氏引

家の成績に依る時は平年作には  
 南

氏(清澤府尹) 同上  
氏(京城駐在露國副領事) 十日夜  
評優長略)











(167)

小冊  
二十  
四頁  
本館  
發行







六月末に比すれば優  
劣の云にて相場も軟弱なりしを



もなく湧き出した白雲は倏忽にしも  
 谷間に立ち迷ひ絶壁の脚下を閉鎖  
 たる快言よ備もない。  
 位山女ならぬ我は登りつめ  
 萬物相の雲の上人  
 金剛山には名稱多々あり春は金剛  
 夏は蓬萊山、秋は楓岳、冬は常々  
 山

◆**最近の卦** 云ふに、  
 更に卦を立てると大人に見ゆる  
 例れは又誰かと一緒に成つ  
 る人生活はやる事になると云  
 ふ其當の相手は矢張り米國人  
 は米國に歸へる事に成るのであ  
 る云ふのである夫れがつひ

[illegible]

郎より、諸侯の臣の御下の四民中、  
 一、農、二、工、三、商、四、士、  
 五、百官の行成卿、  
 松

口も大體臭れし三浦將軍邸に  
 珍物多かりんと感ぜし入りたる泥神  
 床の敷物より蓋ふ他物の御膳品は顧み  
 れと思ふもの一品もな半粒のくちつ  
 口の乾たるが故に花瓶の落たる物  
 之れも一文に増るる位なきに泥  
 神掛け出しながら將軍に傳宣なりて  
 は泥神でござりて行く物はないと見へ

爲すべしと強ゆるより、該方  
 に立歸り右の訴訟に及びカ  
 にあり依つて同法院に於て  
 果原告の申立事項は確實な  
 なきを以て之を却下すこと

[illegible]

電話二一九番  
 龍山柴町  
 龍山炭

正淵 592  
 社左小路 4  
 拆所  
 亡母直  
 殊に炎暑の候  
 御會葬被下  
 混雜中御高名  
 之候に付不取  
 申上候  
 八月十二日  
 長男 堀

[illegible]





女鳥

渡邊 默

「三三」山上の國技館  
この山を前に見た谷川の附近  
は、無数の鳥の巣と見えてゐる  
谷の底に、鳥の巣と見えてゐる  
谷の底に、鳥の巣と見えてゐる



山上の國技館  
この山を前に見た谷川の附近  
は、無数の鳥の巣と見えてゐる  
谷の底に、鳥の巣と見えてゐる  
谷の底に、鳥の巣と見えてゐる

山上の國技館  
この山を前に見た谷川の附近  
は、無数の鳥の巣と見えてゐる  
谷の底に、鳥の巣と見えてゐる  
谷の底に、鳥の巣と見えてゐる

山上の國技館  
この山を前に見た谷川の附近  
は、無数の鳥の巣と見えてゐる  
谷の底に、鳥の巣と見えてゐる  
谷の底に、鳥の巣と見えてゐる

山上の國技館  
この山を前に見た谷川の附近  
は、無数の鳥の巣と見えてゐる  
谷の底に、鳥の巣と見えてゐる  
谷の底に、鳥の巣と見えてゐる

山上の國技館  
この山を前に見た谷川の附近  
は、無数の鳥の巣と見えてゐる  
谷の底に、鳥の巣と見えてゐる  
谷の底に、鳥の巣と見えてゐる

かっけ  
陸軍一等軍醫正  
日本赤十字社  
救急隊員  
救急隊員  
救急隊員

味  
味  
味  
味  
味  
味

味  
味  
味  
味  
味  
味

ミツワ防汗帯  
ミツワ防汗帯  
ミツワ防汗帯  
ミツワ防汗帯  
ミツワ防汗帯  
ミツワ防汗帯

ミツワ水枕  
ミツワ水枕  
ミツワ水枕  
ミツワ水枕  
ミツワ水枕  
ミツワ水枕

丸見屋商店  
丸見屋商店  
丸見屋商店  
丸見屋商店  
丸見屋商店  
丸見屋商店

肺病  
肺病  
肺病  
肺病  
肺病  
肺病

金泉  
金泉  
金泉  
金泉  
金泉  
金泉

丸見屋商店  
丸見屋商店  
丸見屋商店  
丸見屋商店  
丸見屋商店  
丸見屋商店